

学校だより NO.445
令和3年6月1日



品 濃

〈横浜の教育がめざす人づくり〉
自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人

〈学校教育目標〉
夢や希望をもち、自らの生き方を追求する姿勢をはぐくみ、互いの良さを認め合いながら、ともに社会の創造に貢献しようとする態度を養います。

・知 生きて働く知 ・徳 豊かな心 ・体 健やかな体
・公 公共心と社会参画 ・開 未来を拓く志

横浜市立品濃小学校 電話 824-0651 FAX 826-2183

URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinano/>

変わり続けることを楽しむ

副校長 高橋 佐紀子

「始めに、丸い形に固まっている土を入れます。」「その上に、袋に入った土を入れます。」「ぎゅうぎゅうと押しません。」「ふわふわのお布団になるように、やさしく入れてください。」

5月中頃に1年生の「種まきの準備」のお手伝いをしました。教室で担任の話をもっすぐな姿勢と視線で静かに聴く子どもたちの姿に、活動に対する意欲や期待感を感じました。裏庭に出て、いよいよ「土づくり」が始まりました。自分の鉢を手にした子どもたちは、もう一度、種類の違う土を入れる順番を真剣に聴きました。自分の鉢に赤玉土が入り、次に担任がハサミを入れた「土が入った袋」が入ると、それを大事に抱え、指示を受けた花壇の回りに順番に並んで、袋から土をそっと鉢に入れました。

「ふわふわのお布団のように入れるんだよ。」「うわあ、盛り上がっていっぱいになっちゃった。」「でも、おしちゃだめなんだよね。」「次の土が入らないよ。」「どうしよう。」「手で押し込むことができないため、植木鉢のまわりを持って、3回くらい花壇の縁に軽くトントンとしてみて。」と伝えると、子どもたちはすぐにやってみました。そして「あっ、山になった土がまっすぐになったよ。」と、にっこり。解決です。その上に「腐葉土」が入り、鉢を大事に抱え、土のある場所に座って、鉢の中の腐葉土と土をふんわりと混ぜました。

「やさしく、ふわふわにしておいてね。ぎゅうっとしないで・・・。」「お布団だからね。」友だち同士で、また、独り言のように話しながら取り組む姿からは、これから目の前の土からどんな変化が現れるのかを心待ちにするわくわく感が伝わりました。その翌日から毎日、鉢の中を見る子どもたちの姿がありました。鉢の中の様子が変わっていたのです。土の中の小さな緑の芽に喜びの声を上げていました。「隣の鉢と葉の形が違うね。」「ooちゃんとは同じだよ。」種から芽へ、双葉、本葉へと変わり続ける姿に楽しみが生まれました。

子どもの頃、日光修学旅行で華厳の滝を見ていた時に、恩師が私たちに話した言葉を思い出すことがあります。「滝の水がゴウゴウと落ちていく姿を見て感じることは人それぞれ。力強いとか、激しいとか、美しい。人によっては、怖いと感じるかもしれないね。でも、力強いと感じた水も、ほら、滝壺に落ちると姿が変わっている。さっきとは姿が違う水が流れている。時間とともにどんどん姿が変わっていく。変わり続けていくところに何を感じる？」6年生当時の私は「滝の水の姿が変わるのは、あたり前じゃないかな。」としか感じるできませんでした。その後、学びや経験、人との出会いや様々な経験、そして教師になってからの子どもたちとの出会いを通して、恩師の「変わり続けていくところに何を感じる？」という言葉がとても大切な言葉のひとつとなっています。

一瞬も止まることのない時の流れとともに、万物は変わり続け、子どもたちも私たちも変わり続けています。私たち教師は、様々な学習や人との対話や交流、協働や葛藤、課題解決のための試行錯誤などを通して、子どもたちが「変わり続けていくこと」（「成長」と捉えることもできます）を支援しつつ、私たちもまた変わり続けています。そして、恩師に向けて、変わり続けていくところに楽しさを感じるとお伝えする私がいまいます。

先日のフレンドシップフェスティバル当日まで、子どもたちは日々、演技や競技の練習を積み重ね、めあてを達成するための取り組み方を考えて行動し、進んだり立ち止まったりを繰り返し、自分が変わり続ける経過を楽しみ、充実感を味わいながら取り組んでいました。私たちは、子どもたちの笑顔から実感しました。

「今日の自分には納得がいかないときもある。自分なりに真剣に考えた結果として受け止めよう。昨日の自分とは違うし、明日の自分はまた違う。そしてあなたの周りの人も物事も変わり続けていく。どんな自分が変わっていくのかな。楽しみだね。」と、変わり続けていくことを子どもたちとともに楽しんでいきたいです。